

医療を支える環境づくり特別委員会

目 次

医療を支える環境づくり特別委員会調査研究報告書

- I. は じ め に
- II. 委員会構成と開催次第
- III. 平成20年度医療環境整備専門委員会報告と
啓発活動の検証
- IV. 平成22年度事業の検討
～「地域医療と健康を支える環境づくり事業」の活用～
- V. ま と め

医療を支える環境づくり特別委員会

(平成 21 年度)

医療を支える環境づくり特別委員会調査研究報告書

広島県地域保健対策協議会 医療を支える環境づくり特別委員会

委員長 田妻 進

I. はじめに

地域医療の確保は安心な社会環境の根幹である。その医療環境は構造的にも実質的にもメディアで報道されている以上に深刻な様相を呈している。該当する診療分野は幅広く要因も複合的であるが、医療を受ける側（受療者）と、医療を提供する側（医療者）が実状に関して認識を共有することが肝要である。本委員会では、医療者・受療者双方の立場から、①地域医療（特に救急医療，小児救急医療，中山間地域医療）の現場がかかえる問題点の検証，②医療体制の維持・確保に向けた取り組みの提案を募り，それらをもとに協議を重ねたうえで，地域医療を支える環境づくりに向けた実効性のある啓発活動を企画・実践することを目指した。

II. 委員会構成と開催次第

委員の構成として，広島大学病院，広島県，広島市，尾道市，庄原市，広島県医師会，広島市医師会，広島市立病院，県立広島病院，安芸太田病院，国立病院機構など幅広い領域関係者に加えて，市民代表として子育てにやさしい広島推進協議会にも参画いただいて，平成 22 年 2 月 26 日に委員会を開催した。議題として以下に示す内容を順次検討し，地域医療を支える環境づくりに向けた事業を企画・立案した。

- (1) 平成 20 年度「救急車利用実態調査結果報告」
- (2) 平成 20 年度「救急車・救急医療の適正利用啓発キャンペーン」の検証
- (3) 平成 21 年度一般市民向けの講演会の開催・地域医療と健康を支える環境づくり事業
- (4) 平成 22 年度事業の検討

III. 平成 20 年度医療環境整備専門委員会報告と啓発活動の検証

(1) 救急医療体制の現状と問題点

～平成 20 年度「救急車利用実態調査結果報告」から～

広島市消防局は救急医療のコンビニ的利用に対する具体的対応策を検討するため，平成 19 年度から救急車の利用実態調査を実施している。その手法を踏襲して，平成 21 年 2 月 9 日から 1 ヶ月間の救急出動の適正を調査した（資料 1）。

調査方法は，1) 症状が急激に悪化する可能性，2) 症状・傷病程度も区分，3) 傷病者の生活環境（独居老人，身体障害者など）を基準に救急出動の適正を判断するもので，結果として 22.7%（826/3,634 件）の不適正利用を認めた。これは前年度の実績を 0.6% 下回るものであった。不適正利用実数に関する年齢別の検討では，70 歳以上の高齢者に多かったが，同年代の不適正利用割合は 10% 程度であり，20 歳代や 0～12 歳の 30% に比較して低いことが判明した。このアンケート調査直後に，後述する「救急車・救急医療の適正利用啓発キャンペーン」が実施された経緯から，次年度のアンケート結果での推移が期待された。

(2) 救急医療体制の維持に向けた取り組みの企画と実践

～平成 20 年度「救急車・救急医療の適正利用啓発キャンペーン」から～

救急のコンビニ化（軽症患者の救急搬送）や，救急医療体制に対する理解と誤解（時間外医療と救急医療の相違に関する誤解）を問題点として取り上げ，救急車適正利用の推進を主体とした“救急医療資源の適正利用を推進する啓発キャンペーン”が前年度に企画・実践された。平成 21 年 3 月 9 日からの 1 週

間を「救急医療資源の正しい利用を進める週間」として、広島市医療圏域に関わる公共交通機関（JR、電車、バス、タクシー）の協力を得て、ポスター（図1）を車内に掲載するとともに、医療機関の玄関・待合室などにも掲示して一般市民の啓発活動が実施されたことが総括された（資料2）。一方、その効果の検証は前述の広島市消防局によるアンケート調査結果を踏まえて行うことが提案され了承を得た。救急医療資源の利用実態については救急出動の月別件数（資料3）から、その季節変動性を踏まえた実効性のある啓発活動の継続が不可欠であるとの見識で一致した。

IV. 平成22年度事業の検討 ～「地域医療と健康を支える 環境づくり事業」の活用～

社団法人広島県医師会へ委託された広島県緊急雇用対策基金事業を活用した「地域医療と健康を支える環境づくり事業」の平成21年度実績を参考にし

て、本委員会との連携のあり方が検討された。

①救急医療に加えて、②小児救急医療、③中山間地域医療に関する実効性ある啓発活動や広報を本委員会から提言・企画・実践することが検討された。①については前述のとおりである。一方、②については電話相談の普及を含めたコミュニティーとしての対応が望まれる。また、③については、大学、自治体、医師会の3者による包括的な検討課題として対応すべき事業であるが、本委員会からは受療者の側に提供すべき啓発事業として、公開講座を提案することとした。

V. ま と め

医療を支える環境づくり特別委員会について、委員構成、委員会開催概要を報告した。次年度に従来の活動の成果を評価を進めながら、新たな具体策として実効性のある啓発活動を実践して成果をあげていきたい。

平成 20 年度救急車利用実態調査結果

1 概要

本調査は、救急車の利用実態を調査し課題を明らかにすることで、救急医療のコンビニ的利用に対する具体的対応策を検討することを目的として、広島市消防局から広島県地域保健対策協議会医療環境整備専門委員会に要望し、平成 19 年度から実施している。

2 調査方法

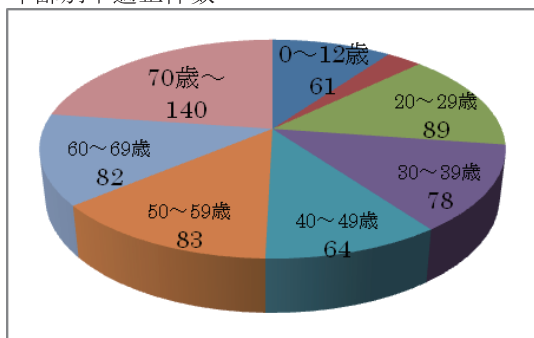
- (1) 調査期間 : 平成 21 年 2 月 9 日 8 時 30 分～平成 21 年 3 月 9 日 8 時 30 分
- (2) 調査対象 : 転院搬送、医師等搬送、資器材等搬送を除く、期間中の全ての救急出動事案
- (3) 調査方法 : 別添「適正基準・判断基準表」を用いたポイント制による区分

「適正基準」に該当もしくは「判断基準表」で 4 ポイント以上	→	【適正利用】
「適正基準」に該当せず、かつ「判断基準表」で 3 ポイント以下	→	【不適正利用】

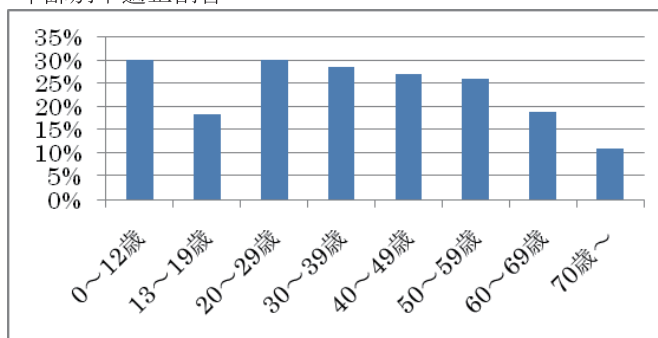
3 調査結果

- (1) 総出動件数 3,634 件中、不適正件数が 826 件 (22.7%) であった。(前年比-0.6%)
- (2) 不適正利用 826 件中、明らかな不適正利用が 159 件あり、上位を「飲酒 : 69 件」、「複数回利用 : 44 件」、「入院・通院 : 21 件」が占める。
- (3) 不適正利用 826 件中、搬送されたのは 615 人で、そのうち「軽症」が 509 人 (82.8%) であった。
- (4) 年齢別 (搬送人数中) では、「70 歳以上」の不適正利用が最も多いが、逆に不適正割合は最も低く、「0～12 歳」と「20 歳代」が 30.2%と最も高い。

年齢別不適正件数



年齢別不適正割合



4 考察

救急出動件数、不適正利用件数ともに昨年度より減少していることから、広報紙やホームページ、マスメディアを活用した救急車適正利用の PR は効果があったと思慮する。

また、2 年間を通じて、入院の必要がない「軽症者」が不適正搬送人数の約 8 割を占めることから、今後も引き続き徹底して救急車適正利用の PR を行っていく必要がある。

「中区」「西区」での不適正利用が多いこと、また、「0～12 歳」及びその両親世代に当たる「20 代」「30 代」の不適正利用が多いことを踏まえ、PR の手法を検討していく。

適正基準・判断基準表

1 適正基準

以下の症状にひとつでも該当すれば「適正利用」とする。

症状	
意識	おかしい(無い・ぐったり・ぼんやり) ※飲酒による場合を除く
呼吸	おかしい(無い・苦しそう)
顔色	蒼白・チアノーゼ
嘔吐	繰り返す ※飲酒による場合を除く
吐血・下血	あり
頭・胸・腹痛	苦悶・嘔吐を伴う痛み
麻痺・しびれ	急性発症
その他痛み	苦悶様
外出血	飛び散る・湧き出る・止まらない
骨折等	変形あり 腫脹あり
熱傷	手のひら以上

2 判断基準

以下の症状、状態、状況の組み合わせにより4ポイント以上で「適正利用」、3ポイント以下で「不適正利用」とする。

症状		ポイント
意識	一時気を失ったが現在は良好	2
	アルコールの影響で返事ができない	2
脈拍	ドキドキする	1
熱	40度を越える高熱	2
	あり	1
嘔吐	あり	1
頭・胸・腹痛	あり	1
麻痺・しびれ	あり	2
部分痙攣	あり	2
めまい	あり	2
その他の痛み	あり	1
外出血	滲む程度の微出血(頭部の場合)	2
	滲む程度の微出血	1
骨折等	打撲程度(頭部の場合)	2
	打撲程度	1
眼痛	目を開くことが出来ないくらい	2
熱傷	手のひら未満	1

状態		ポイント
歩行	全く歩けない(歩かせられない)	2
	介添えがあれば歩ける	1

状況		ポイント
状況	周囲に介助ができる者がいない状況	1

平成 20 年度救急車利用実態調査結果 (前年度比較)

調査期間：平成 21 年 2 月 9 日 8:30 ～ 平成 21 年 3 月 9 日 8:30

調査対象：転院搬送、医師等搬送、資器材等搬送を除く、期間中の全ての救急出動事案

調査方法：別添「適正基準：判断基準表」を用いたポイント制による調査

[

「適正基準」に該当もしくは「判断基準表」で 4 ポイント以上 → 【適正利用】
「適正基準」に該当せず、かつ「判断基準表」で 3 ポイント以下 → 【不適正利用】
]

1 調査結果

区分	総出動件数 (搬送人数)	不適正利用件数 (搬送人数)	不適正割合
H20 年度	3,634 件 (3,171 人)	826 件 (615 人)	22.7%
H19 年度	3,854 件 (3,403 人)	898 件 (662 人)	23.3%

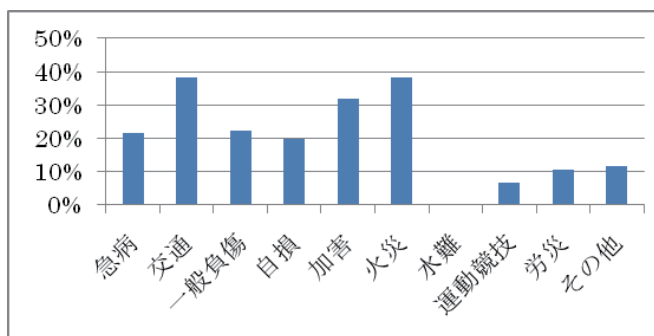
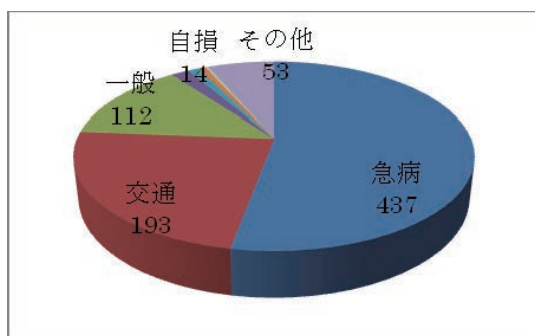
・年間出動件数も減少している。(20 年中：48,048 件、19 年中：50,288 件)

2 明らかな不適正利用

区分	飲酒	複数回利用	入院・通院	医療情報不足	虚報	介護対応	計
H20 年度	69 (43.4%)	44 (27.7%)	21 (13.2%)	15 (9.4%)	6 (3.8%)	4 (2.5%)	159 件
H19 年度	64 (38.0%)	19 (11.4%)	43 (25.5%)	31 (18.5%)	8 (4.8%)	3 (1.8%)	168 件

3 事故種別

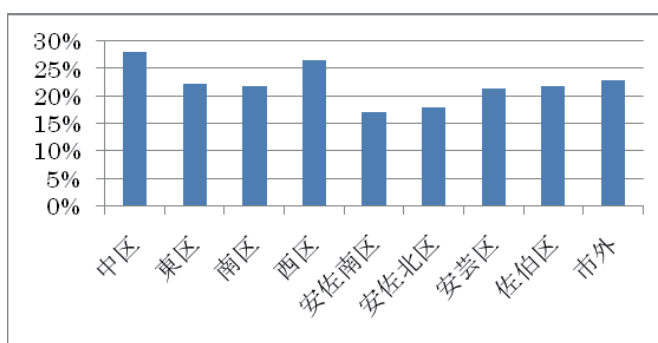
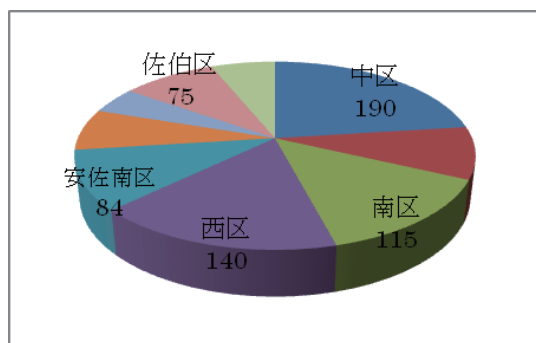
区分	急病	交通	一般負傷	自損	加害	火災	水難	運動競技	労災	その他
②総出動	2,013 (55.4%)	503 (13.8%)	503 (13.8%)	71 (2.0%)	28 (0.8%)	13 (0.4%)	4 (0.1%)	16 (0.4%)	19 (0.5%)	464 (12.8%)
②不適正	437 (52.9%)	193 (23.4%)	112 (13.6%)	14 (1.7%)	9 (1.1%)	5 (0.6%)	0 (0%)	1 (0.1%)	2 (0.2%)	53 (6.4%)
②不適割合	21.7%	38.4%	22.3%	19.7%	32.1%	38.5%	0%	6.3%	10.5%	11.4%
①総出動	2,189 (56.8%)	475 (12.3%)	547 (14.2%)	63 (1.6%)	15 (0.4%)	37 (1.0%)	2 (0.1%)	13 (0.3%)	26 (0.7%)	487 (12.6%)
①不適正	508 (56.5%)	169 (18.8%)	138 (15.4%)	9 (1.0%)	5 (0.6%)	5 (0.6%)	0 (0%)	5 (0.6%)	2 (0.2%)	57 (6.3%)
①不適割合	23.2%	35.6%	25.2%	14.3%	33.3%	13.5%	0%	38.5%	7.7%	11.7%



4 地区別

区分	中区	東区	南区	西区	安佐南区	安佐北区	安芸区	佐伯区	市外
⑳総出動	677 (18.6%)	334 (9.2%)	527 (14.5%)	528 (14.5%)	495 (13.6%)	328 (9.1%)	178 (4.9%)	344 (9.5%)	223 (6.1%)
㉑不適正	190 (23.0%)	74 (9.0%)	115 (13.9%)	140 (16.9%)	84 (10.2%)	59 (7.1%)	38 (4.6%)	75 (9.1%)	51 (6.2%)
㉒不適割合	28.1%	22.2%	21.8%	26.5%	17.0%	18.0%	21.3%	21.8%	22.9%
㉓総出動	765 (19.8%)	361 (9.4%)	498 (12.9%)	592 (15.4%)	493 (12.8%)	376 (9.7%)	196 (5.1%)	326 (8.5%)	247 (6.4%)
㉔不適正	200 (22.3%)	97 (10.8%)	141 (15.7%)	151 (16.8%)	83 (9.2%)	44 (4.9%)	56 (6.2%)	66 (7.4%)	60 (6.7%)
㉕不適割合	26.1%	26.9%	28.3%	25.5%	16.8%	11.7%	28.6%	20.2%	24.3%

・「中区」に次いで、2年間を通じて件数、割合ともに高い数値を示しているのは「西区」である。



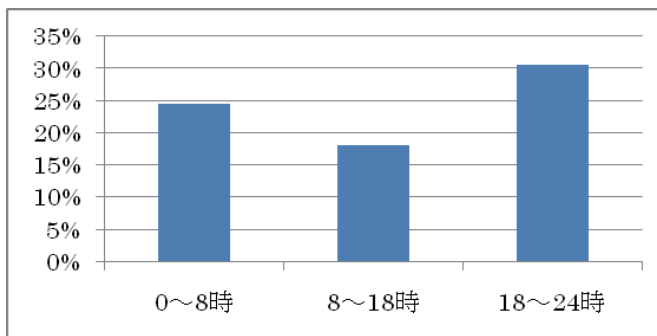
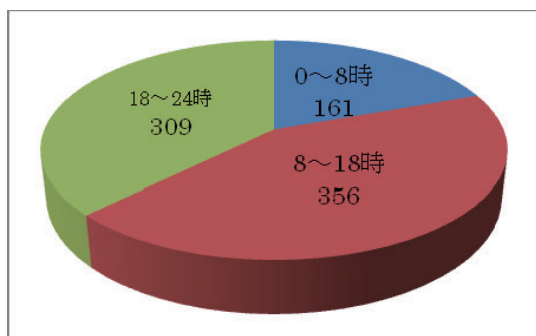
5 時間別

区分	時間帯	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
㉑総出動	0～8時	99 (2.7%)	92 (2.5%)	74 (2.0%)	96 (2.7%)	91 (2.5%)	91 (2.5%)	113 (3.1%)
	8～18時	330 (9.1%)	281 (7.7%)	251 (6.9%)	317 (8.7%)	275 (7.6%)	282 (7.8%)	229 (6.3%)
	18～24時	145 (4.0%)	145 (4.0%)	124 (3.4%)	132 (3.6%)	163 (4.5%)	165 (4.6%)	139 (3.8%)
㉒不適正	0～8時	20 (2.4%)	19 (2.3%)	21 (2.5%)	25 (3.0%)	23 (2.8%)	27 (3.3%)	26 (3.1%)
	8～18時	61 (7.4%)	41 (5.0%)	49 (5.9%)	57 (6.9%)	52 (6.3%)	48 (5.8%)	48 (5.8%)
	18～24時	38 (4.6%)	44 (5.3%)	31 (3.8%)	46 (5.6%)	62 (7.5%)	46 (5.6%)	42 (5.1%)
㉓不適割合	0～8時	20.2%	20.7%	28.4%	26.0%	25.3%	29.7%	23.0%
	8～18時	18.5%	14.6%	19.5%	18.0%	18.9%	17.0%	21.0%
	18～24時	26.2%	30.3%	25.0%	34.8%	38.0%	27.9%	30.2%

5 時間別の続き

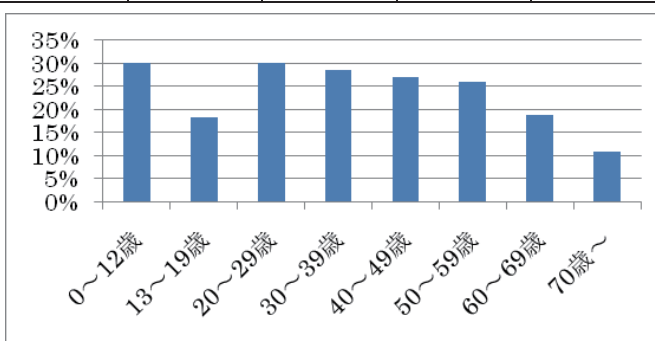
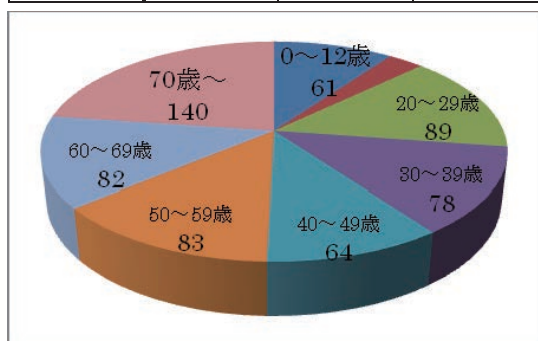
区分	時間帯	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
⑩総出動	0～8時	105 (2.7%)	97 (2.5%)	117 (3.0%)	112 (2.9%)	103 (2.7%)	103 (2.7%)	118 (3.1%)
	8～18時	324 (8.4%)	366 (9.5%)	308 (8.0%)	292 (7.6%)	286 (7.4%)	285 (7.4%)	260 (6.7%)
	18～24時	145 (3.8%)	149 (3.9%)	145 (3.8%)	117 (3.0%)	152 (3.9%)	132 (3.4%)	138 (3.6%)
⑩不適正	0～8時	28 (3.1%)	15 (1.7%)	35 (3.9%)	27 (3.0%)	27 (3.0%)	25 (2.8%)	37 (4.1%)
	8～18時	56 (6.2%)	69 (7.7%)	61 (6.8%)	50 (5.6%)	43 (4.8%)	64 (7.1%)	61 (6.8%)
	18～24時	37 (4.1%)	46 (5.1%)	41 (4.6%)	34 (3.8%)	58 (6.5%)	36 (4.0%)	48 (5.3%)
⑩不適割合	0～8時	26.7%	15.5%	29.9%	24.1%	26.2%	24.3%	31.4%
	8～18時	17.3%	18.9%	19.8%	17.1%	15.0%	22.5%	23.5%
	18～24時	25.5%	30.9%	28.3%	29.1%	38.2%	27.3%	34.8%

・総じて、「18～24時」の不適正割合が高く、特に「金曜日」が2年間を通して高い割合を示す。



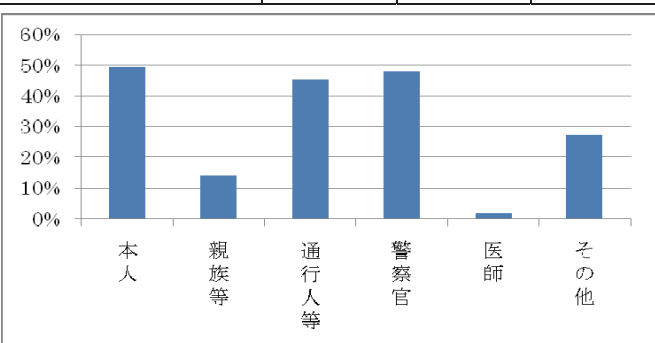
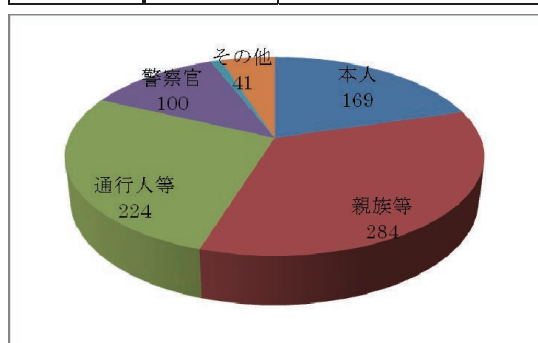
6 年齢別（搬送人数中）

区分	0～12歳	13～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳～
⑳総出動	202 (6.4%)	99 (3.1%)	295 (9.3%)	274 (8.6%)	236 (7.4%)	319 (10.1%)	438 (13.8%)	1,308 (41.3%)
㉑不適正	61 (9.9%)	18 (2.9%)	89 (14.5%)	78 (12.7%)	64 (10.4%)	83 (13.5%)	82 (13.3%)	140 (22.8%)
㉒不適割合	30.2%	18.2%	30.2%	28.5%	27.1%	26.0%	18.7%	10.7%
㉓総出動	257 (7.5%)	124 (3.6%)	301 (8.8%)	288 (8.5%)	220 (6.5%)	333 (9.8%)	466 (13.7%)	1,414 (41.6%)
㉔不適正	78 (11.8%)	35 (5.3%)	90 (13.6%)	93 (14.1%)	55 (8.3%)	69 (10.4%)	71 (10.7%)	171 (25.8%)
㉕不適割合	30.4%	28.2%	29.9%	32.3%	25.0%	20.7%	15.2%	12.1%



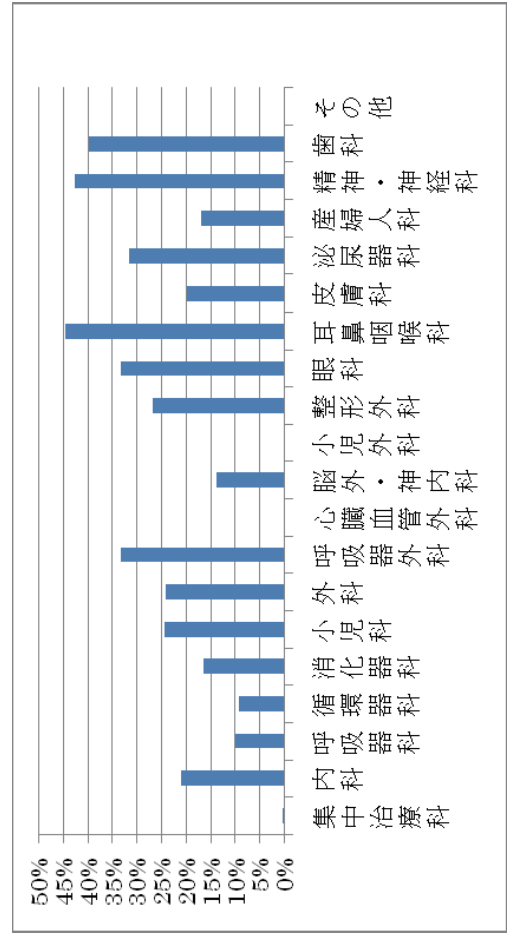
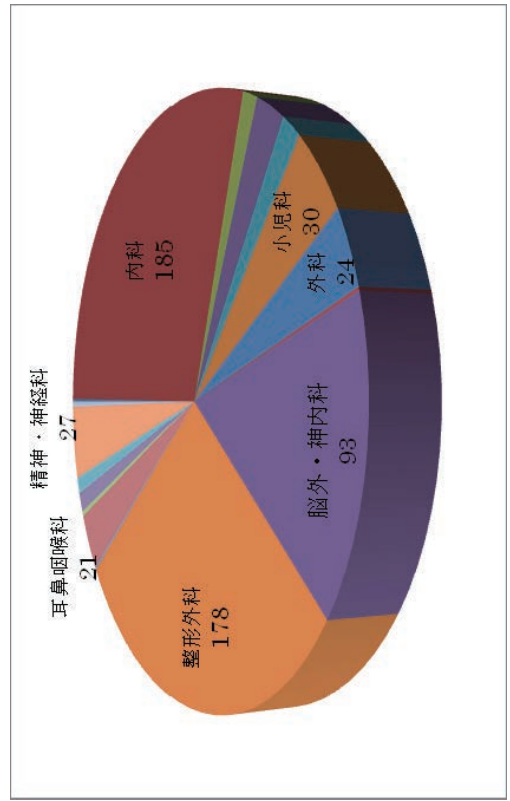
7 通報者別

区分	本人	親族・知人	通行人・付近者 場所関係者	警察官	医師	その他
⑳総出動	343 (9.4%)	2,024 (55.7%)	495 (13.6%)	209 (5.8%)	412 (11.3%)	151 (4.2%)
㉑不適正	169 (20.4%)	284 (親 253・知 31) (34.4%)	224 (通 109・場 115) (27.1%)	100 (12.1%)	8 (1.0%)	41 (5.0%)
㉒不適割合	49.3%	14.0%	45.3%	47.8%	1.9%	27.2%
㉓総出動	359 (9.3%)	2,177 (56.5%)	533 (13.8%)	184 (4.8%)	464 (12.0%)	137 (3.6%)
㉔不適正	179 (19.9%)	340 (親 281・知 59) (37.9%)	263 (通 117・場 146) (29.3%)	48 (5.3%)	6 (0.7%)	62 (6.9%)
㉕不適割合	49.9%	15.6%	49.3%	26.1%	1.3%	45.3%



8 診療科別（搬送人数中）

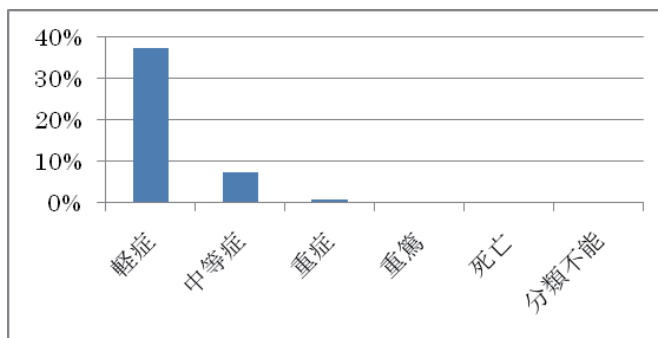
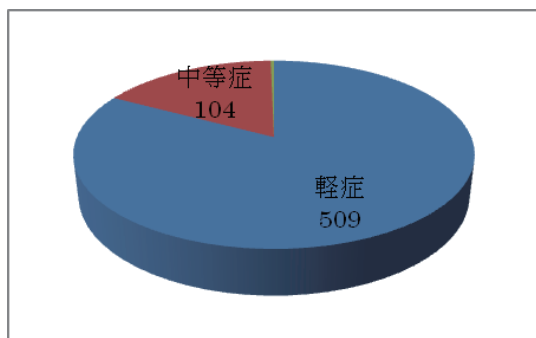
区分	集中治療科	内科	呼吸器科	循環器科	消化器科	小児科	外科	呼吸器外科	心臓血管外科	脳外・神内科	小児外科	整形外科	眼科	耳鼻咽喉科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	精神・神経科	歯科	その他
⑳総出動	202 6.4%	878 27.7%	90 2.8%	182 5.7%	66 2.1%	123 3.9%	99 3.1%	3 0.1%	7 0.2%	669 21.1%	6 0.2%	659 20.8%	3 0.1%	47 1.5%	10 0.3%	22 0.7%	35 1.1%	63 2.0%	5 0.1%	2 0.1%
㉑不適正	1 0.2%	185 30.1%	9 1.4%	17 2.8%	11 1.8%	30 4.9%	24 3.9%	1 0.2%	0 0%	93 15.1%	0 0%	178 28.9%	1 0.2%	21 3.4%	2 0.3%	7 1.1%	6 1.0%	27 4.4%	2 0.3%	0 0%
㉒不適割合	0.5%	21.1%	10.0%	9.3%	16.7%	24.4%	24.2%	33.3%	0%	13.9%	0%	27.0%	33.3%	44.7%	20.0%	31.8%	17.1%	42.9%	40.0%	0%
㉓総出動	208 6.1%	911 26.8%	121 3.5%	252 7.4%	108 3.2%	154 4.5%	91 2.7%	5 0.1%	4 0.1%	691 20.3%	2 0.1%	643 18.9%	6 0.2%	45 1.3%	16 0.5%	36 1.0%	41 1.2%	61 1.8%	2 0.1%	6 0.2%
㉔不適正	3 0.4%	205 31.0%	11 1.7%	25 3.8%	15 2.3%	39 5.9%	29 4.4%	0 0%	0 0%	95 14.3%	1 0.2%	166 25.1%	4 0.6%	17 2.6%	4 0.6%	9 1.3%	8 1.2%	26 3.9%	2 0.3%	3 0.4%
㉕不適割合	1.4%	22.5%	9.1%	9.9%	13.9%	25.3%	31.9%	0%	0%	13.7%	50.0%	25.8%	66.7%	37.8%	25.0%	25.0%	19.5%	42.6%	100%	50.0%



9 傷病程度別（搬送人数中）

区分	軽症	中等症	重症	重篤	死亡	分類不能
⑳総出動	1,358 (42.8%)	1,434 (45.2%)	278 (8.8%)	63 (2.0%)	35 (1.1%)	3 (0.1%)
㉑不適正	509 (82.8%)	104 (16.9%)	2 (0.3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
㉑不適割合	37.5%	7.3%	0.7%	0%	0%	0%
㉒総出動	1,575 (46.3%)	1,422 (41.8%)	287 (8.4%)	82 (2.4%)	36 (1.0%)	1 (0.1%)
㉒不適正	559 (84.4%)	99 (15.0%)	3 (0.4%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (0.2%)
㉒不適割合	35.5%	7.0%	1.0%	0%	0%	100%

・不適正件数の「重症」2件については、肝硬変（2ポイント）、腸ヘルニア（3ポイント）で、緊急性は低く、ともに入院目的での救急車利用であった。



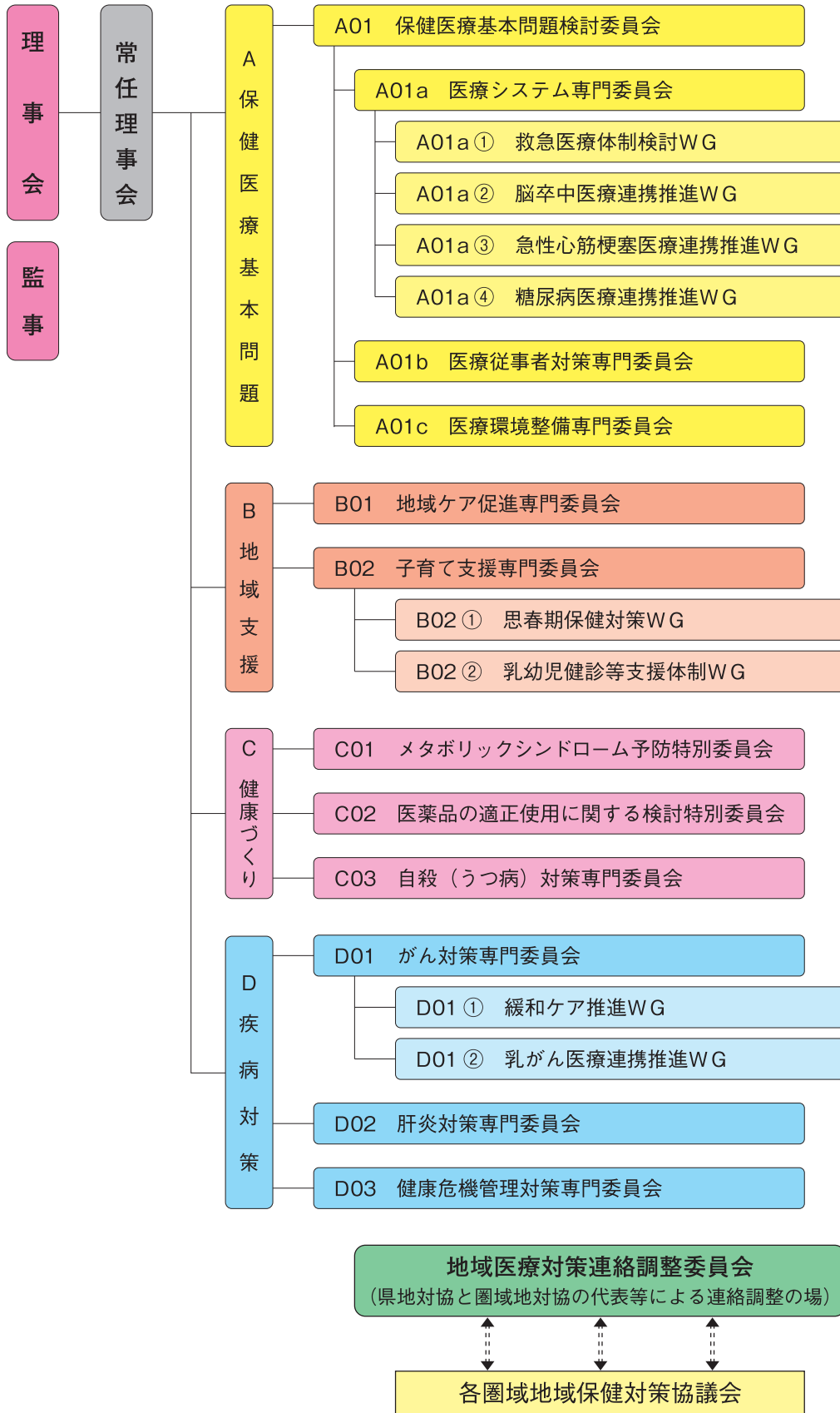
平成20年度
広島県地域保健対策協議会
調査研究報告書

(通刊第40号)

広島県地域保健対策協議会

平成20年度広島県地域保健対策協議会組織図

12委員会, 8WG



医療環境整備専門委員会

目 次

医療環境整備専門委員会活動報告書

- I. は じ め に
- II. 委員会構成と委員会開催
- III. 救急医療体制の現状と問題点
～救急車利用実態の再調査から～
- IV. 救急医療体制の維持に向けた取り組みの企画と実践
～救急医療資源の適正利用を進める啓発キャンペーン～
- V. ま と め

医療環境整備専門委員会

(平成 20 年度)

医療環境整備専門委員会活動報告書

広島県地域保健対策協議会 医療環境整備専門委員会

委員長 田妻 進 (広島大学病院
総合内科・総合診療科)

目次

- I. はじめに
- II. 委員会構成
- III. 救急医療体制の現状と問題点
～救急車利用実態の再調査から～
- IV. 救急医療体制の維持に向けた取り組みの企画と実践
～救急医療資源の適正利用を進める啓発キャンペーン～
- V. まとめ

III. 救急医療体制の現状と問題点

～救急車利用実態の再調査から～

広島市消防局は救急医療のコンビニ的利用に対する具体的対応策を検討するため、平成20年2月12日から1ヵ月間の救急出動の適正を調査した(資料1)。

調査方法は、1) 症状が急激に悪化する可能性、2) 症状・傷病程度も区分、3) 傷病者の生活環境(独居老人、身体障害者等)を基準に救急出動の適正を判断するもので、結果として23.3%(898/3,854件)の不適正利用を認めた。これは前年度の実績を上回るものであった。今回は実態調査に引き続いて、広島市が行っている救急車適正利用のPR活動についてアンケート調査が実施されたが、その認知度は35.2%であったが、若年者においてその認知度が比較的低いことが判明した。

IV. 救急医療体制の維持に向けた取り組みの企画と実践

～救急医療資源の適正利用を進める啓発キャンペーン～

前述の実態調査から、1) 救急のコンビニ化(軽症患者の救急搬送)、2) 救急医療体制に対する理解と誤解(時間外医療と救急医療の相違に関する誤解)を問題点として取り上げ、救急車適正利用の推進を主体とした“救急医療資源の適正利用を推進する啓発キャンペーン”を企画・実践した。

平成21年3月9日からの1週間を「救急医療資源の正しい利用を進める週間」として、広島市医療圏に関わる公共交通機関(JR、電車、バス、タクシー)の協力を得て、ポスター(図1)を車内に掲載するとともに、医療機関の玄関・待合室などにも掲示して一般市民の啓発活動を行った(資料2)。また、3月9日は“サン・キュー”の日としてスター

I. はじめに

医療を取り巻く環境はメディアで報じられる以上に深刻な様相を呈している。中でも救急医療に関する状況は深刻である。その要因は複合的であるが、医療を受ける側(受療者)の認識と、医療を提供する側(医療者)の認識の微妙な“ずれ”が少なからず影響していると推察される。本委員会では、医療者・受療者双方の立場から、①救急医療体制の現状に関する問題点の指摘、②救急医療体制の維持に向けた取り組みについて提案を依頼し、それらをもとに協議を重ねたうえで、医療環境改善に向けた実効性のある“啓発キャンペーン”を企画・実践した。

II. 委員会構成と委員会開催

委員の構成として、広島大学病院、広島県、広島市、広島県医師会、広島市医師会、広島地域保健所、広島市民病院、中国労災病院の当該領域関係者に加えて、市民代表として子育てにやさしい広島推進協議会委員2名にも御参画いただいた。1回目の委員会を平成20年7月15日(表1)に開催し、救急医療体制の現状調査をもとに問題点を把握し、体制維持に向けた取り組みを提案した。第2回目を平成21年3月5日(表2)に開催して具体的な“啓発キャンペーン”企画の実践に向けた最終調整を行った。

トイベントをJR広島駅ならびに広島大学病院にて行い（資料3）、地元メディアからの好意的な支援も受けて、本イベントは報道された。

V. ま と め

2年間の活動の集大成を“啓発キャンペーン”とし

て完結できたことは、ひとえに委員ならびに関係各位のご支援の賜物であった。誌面を借りてあらためて心より感謝申し上げるとともに、この一般市民へのアプローチがどのように帰結するのか推移を見守りたい。

表1 地対協 医療環境整備専門委員会
平成20年7月15日(火)

氏名	所属
田 妻 進	広島大学病院総合内科・総合診療科教授
岩 崎 泰 昌	広島大学病院高度救命救急センター講師
田 代 裕 尊	広島大学病院第二外科講師
近 末 文 彦	広島地域保健所長
土久岡 り え	子育てにやさしい広島推進協議会委員
内 藤 博 司	広島市民病院 集中治療部兼救急診療部部长
中 川 五 男	中国労災病院救急部長
中 西 幸 造	広島市医師会理事（中西医院）
檜 谷 義 美	広島県医師会副会長
兵 藤 純 夫	広島市立舟入病院小児科部長
平 谷 優 子	子育てにやさしい広島推進協議会委員
藤 原 健 悟	広島市消防局警防部救急担当部長
井 崎 陽 介	広島市消防局警防部
堀 江 正 憲	広島県医師会常任理事
市 本 一 正	広島市健康福祉局保健部保健医療課長
鹿 田 一 成	広島県健康福祉局保健医療部 医療政策課長

(順不同・敬称略)

表2 地対協 医療環境整備専門委員会
平成21年3月5日(木)

氏名	所属
田 妻 進	広島大学病院総合内科・総合診療科教授
岩 崎 泰 昌	広島大学病院高度救命救急センター講師
高 杉 敬 久	広島県医師会副会長
田 代 裕 尊	広島大学病院第二外科講師
近 末 文 彦	広島地域保健所長
土久岡 り え	子育てにやさしい広島推進協議会委員
内 藤 博 司	広島市民病院 集中治療部兼救急診療部部长
中 川 五 男	中国労災病院救急部長
中 西 幸 造	広島市医師会理事（中西医院）
檜 谷 義 美	広島県医師会副会長
兵 藤 純 夫	広島市立舟入病院小児科部長
平 谷 優 子	子育てにやさしい広島推進協議会委員
藤 原 健 悟	広島市消防局警防部救急担当部長
井 崎 陽 介	広島市消防局警防部
堀 江 正 憲	広島県医師会常任理事
市 本 一 正	広島市健康福祉局保健部保健医療課長 (代理：行竹 昭)
鹿 田 一 成	広島県健康福祉局保健医療部 医療政策課長 (代理：宇津宮仁志)

(順不同・敬称略)

救急車利用実態調査等について

1 救急車利用実態調査

(1) 概要

救急医療のコンビニ的利用に対する具体的対応策を検討するため、平成 20 年 2 月 12 日から 1 ヶ月間の救急出動について調査した。

(2) 調査方法

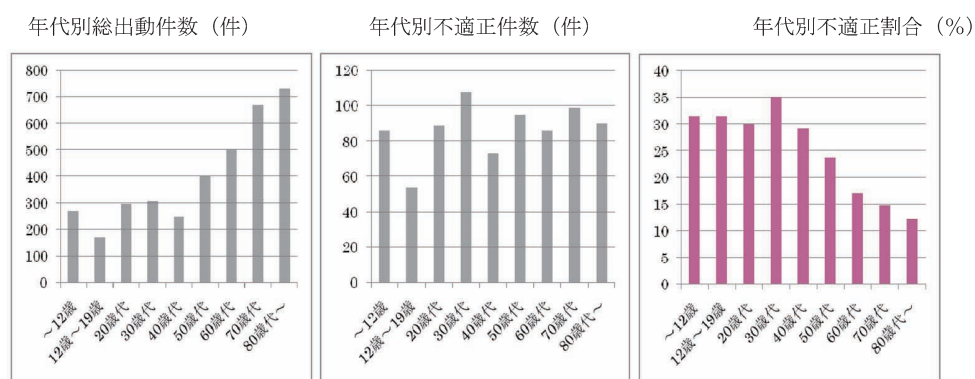
救急出動(転院搬送、医師等搬送、資器材等搬送を除く。)を大きく「適正利用」と「不適正利用」に区分し、事案の発生場所、時間、患者の年齢等、利用者の構成及び不適正利用の要因を調査した。

次の基準に従って、総合的に適正又は不適正の判断を行った。

- 症状が急激に悪化する可能性の有無
- 一般的にもわかる症状で傷病程度を区分(簡便な判断基準)
- 傷病者の生活環境を加味(独り暮らし老人、身体障害者等)

(3) 調査結果

- ・総出動件数 3,854 件中、不適正利用該当件数が 898 件(23.3%)であった。
- ・総出動件数では、70 歳代以上の利用が多いが、不適正利用件数では 20 歳代、30 歳代が前者を上回る。



(4) その他

継続調査を実施(平成 21 年 2 月 9 日～3 月 9 日)

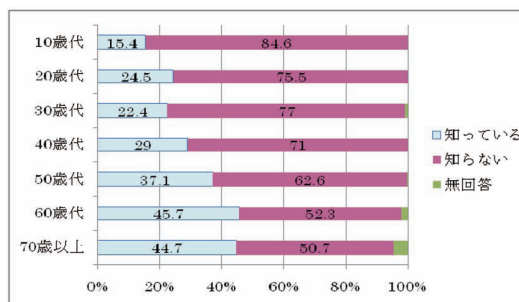
2 市民意識実態調査

(1) 概要

本市が平成 20 年 3 月、広島市に在住する 18 歳以上の男女 5,000 人を対象にしたアンケート

(2) 結果

本市が行っている救急車適正利用の PR について、「知っている」と回答した人は 35.2%であった。年代別でみると、20 歳代が 24.5%、30 歳代が 22.4%と低く、職業別でみると、事務職が 20.5%、学生が 20.4%と低い。



資料2：『救急車・救急医療の適正利用啓発キャンペーン』の実施

資 料 提 供			
平成21年3月4日			
課 名	医療政策課	所 属	広島市消防局
担当者	坂上, 村井	担当者	藤原部長, 井崎
電 話	082-513-3062	電 話	082-546-3461
所 属	広島大学総合診療科	担当者	田妻教授
電 話	082-257-5461		

『救急車・救急医療の適正利用啓発キャンペーン』の実施について

1 趣 旨

救急車や救急医療機関などの救急医療資源の適正な利用について、県民の理解と協力を求めるため、「救急医療資源の正しい利用を進める週間」を定め、公共交通機関の車両等へ啓発ポスターを掲示するなどのキャンペーンを展開する。

2 啓発週間

平成21年3月9日(月)～平成21年3月15日(日)

3 実施主体

広島県地域保健対策協議会，広島県消防長会，ひろしま健康づくり県民運動推進会議

4 実施内容

○啓発ポスター等の作成・掲示

種 類	ポスター		ステッカー	リーフレット
大きさ	B 3判・横	A 2判・縦	横210mm・縦60mm	A 4判・縦
作成枚数	1,350枚	800枚	7,300枚	10,000枚

協 力 機 関	内 容	数 量
西日本旅客鉄道(株)	J R各車両へのポスター掲示 (B 3判・横) 1枚	600枚
広島電鉄(株)	各車両へのポスター掲示 (B 3判・横) 2枚	電車 360枚 市内バス 170枚 郊外バス 220枚
計		1,350枚
(社)広島県タクシー協会	タクシー車両へのステッカー貼付 1枚	5,900枚
広島県個人タクシー協会		1,400枚
計		7,300枚

※ポスターは、救急医療機関(152施設)へも掲示を依頼する。(A 2判約800枚)

※リーフレットは、県内消防局・消防本部，医療機関等へ配布する。

5 実施する背景等

- 「広島県地域保健対策協議会」(広島県，広島県医師会，広島大学，広島市で構成)において，救急医療の現場を支援するための方策等について検討を進め，その一環として，昨年2月に広島市消防局管内で「救急車の利用状況」について調査を行った結果，救急車による患者搬送人員のうち，約2割超が「不適正な利用」であったという結果が出ている。
- 夜間や休日の救急外来における軽症患者の増加などを背景に，重症救急患者の円滑な受入が難しい状況になりつつある。

【取材のお願い】

啓発キャンペーンの開始に際して，啓発ポスターの掲示を，広島大学病院高度救命救急センター講師の岩崎医師が行います。

- 日 時：3月9日(月)午前9時
- 場 所：広島大学病院(広島市南区霞一丁目2番3号)
入院棟1階時間外出入口
- 連絡先：広島大学病院広報
担当 藤田 電話(082)257-5014

【協力機関取材連絡先】

- 西日本旅客鉄道(株)
担当者：広島支社 営業課 福江副課長
電話(082)264-7420
- 広島電鉄(株)
担当者：M・Sカンパニー経理管理グループ資材チーム
大田さん
電話(082)242-3545

J R, 広電用：ポスター（B3横サイズ）



タクシー用：ステッカー（縦60×横210mm）：両面印刷



（医療機関用：A2縦サイズ）



図1 『救急車・救急医療の適正利用啓発キャンペーン』ポスター

資料3：「救急医療資源の正しい利用を進める週間」のスタートイベント

「救急車・救急医療の適正利用啓発キャンペーン」のイベントについて

1 趣旨

「救急医療資源の正しい利用を進める週間」のスタートイベントとして、啓発リーフレットの配布等を行う。

2 実施日時

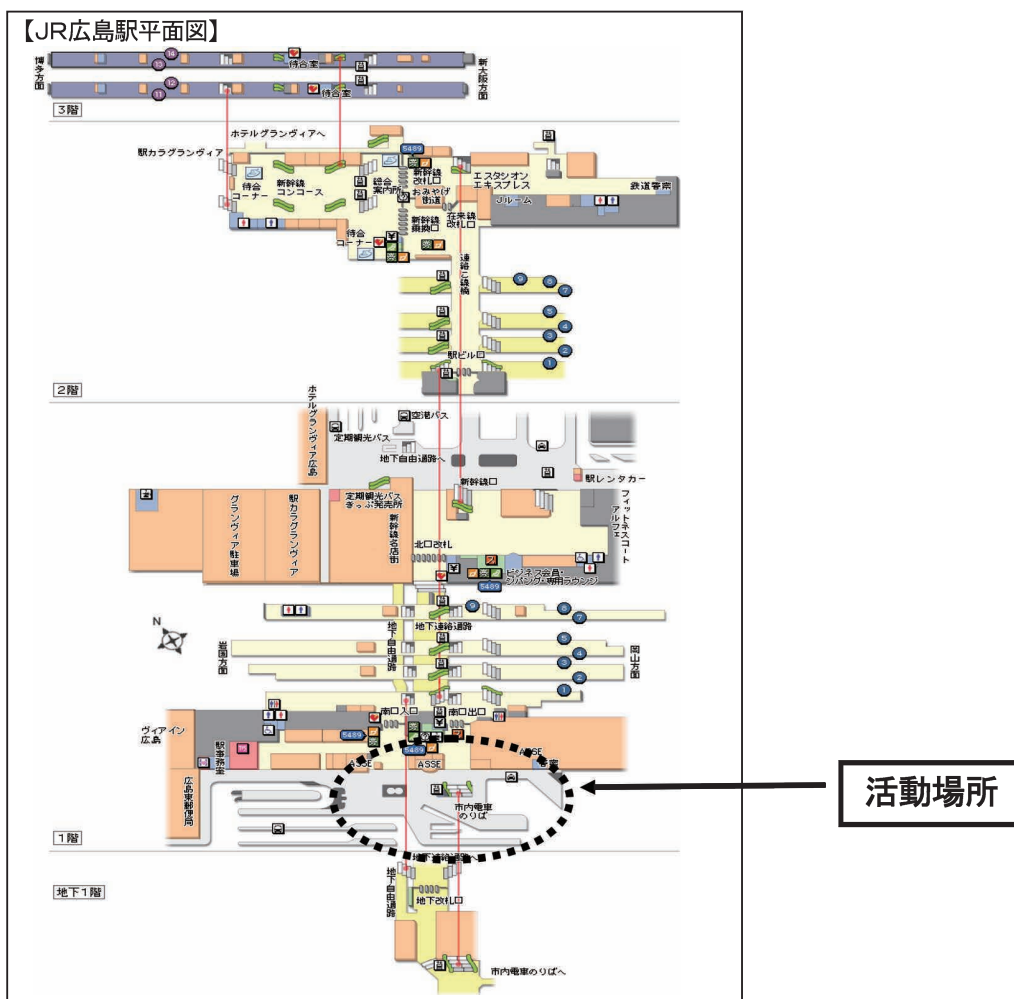
平成21年3月9日（月）午前8時～午前9時頃

3 場所

JR広島駅改札南口出口及び駅前広場

4 参加者

広島市消防局，広島県医師会，広島県 約11名

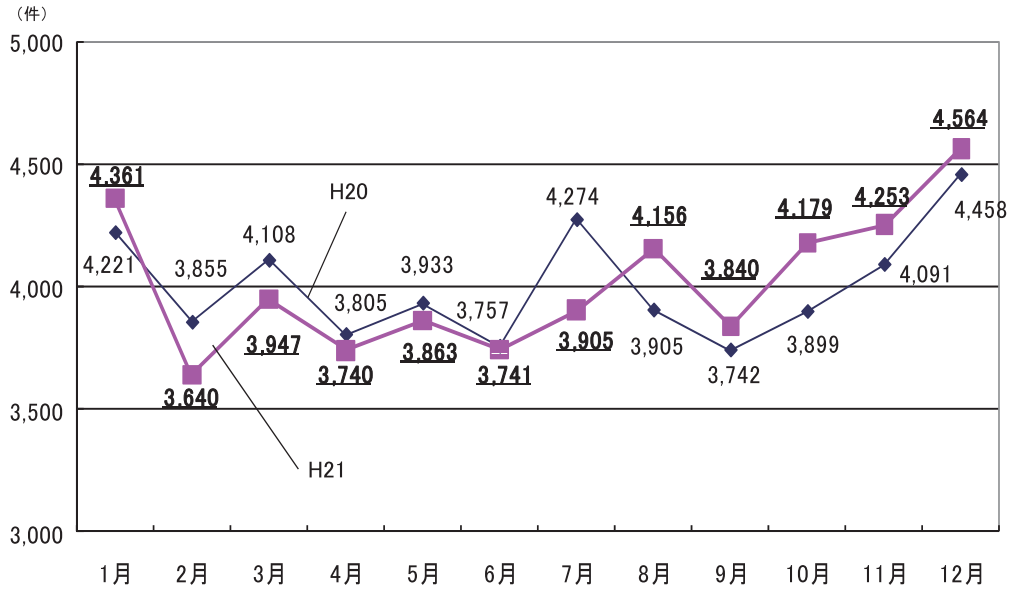


広島県地域保健対策協議会 医療環境整備専門委員会

委員長	田妻 進	広島大学病院総合内科・総合診療科
委員	市本 一正	広島市健康福祉局保健部保健医療課
	岩崎 泰昌	広島大学病院
	鹿田 一成	広島県健康福祉局保健医療部医療政策課
	田代 裕尊	広島大学病院
	近末 文彦	広島地域保健所
	土久岡りえ	子育てにやさしい広島推進協議会
	内藤 博司	広島市立広島市民病院
	中川 五男	中国労災病院
	中西 幸造	広島市医師会
	檜谷 義美	広島県医師会
	兵藤 純夫	広島市立舟入病院
	平谷 優子	子育てにやさしい広島推進協議会
	藤原 健悟	広島市消防局警防部
	堀江 正憲	広島県医師会

資料3：広島市消防局管内救急出動件数（月別）

広島市消防局管内救急出動件数（月別）



広島県地域保健対策協議会 医療を支える環境づくり特別委員会

- | | | |
|-----|-------|--------------------|
| 委員長 | 田妻 進 | 広島大学病院総合内科・総合診療科 |
| 委員 | 池田 政憲 | 国立病院機構福山医療センター |
| | 市本 一正 | 広島市健康福祉局保健部保健医療課 |
| | 岩崎 泰昌 | 広島大学病院高度救命救急センター |
| | 佐原 正伸 | 尾道市健康推進課 |
| | 高杉 敬久 | 広島県医師会 |
| | 竹内 啓祐 | 県立広島病院 |
| | 武澤 巖 | 安芸太田病院 |
| | 津山 順子 | 広島県健康福祉局保健医療部医療政策課 |
| | 土手 慶五 | 広島市立安佐市民病院 |
| | 内藤 博司 | 広島市立広島市民病院 |
| | 西田 英司 | 庄原市保健医療課 |
| | 檜谷 義美 | 広島県医師会 |
| | 兵藤 純夫 | 広島市立舟入病院 |
| | 平谷 優子 | 子育てにやさしい広島推進協議会 |
| | 堀江 正憲 | 広島県医師会 |
| | 山下 聰 | 広島市消防局警防部 |